

# 外国人留学生研究発表会

外国人留学生から見た日本。  
アジアの国との異文化間理解。

本学で学ぶ外国人留学生が、日本社会や文化について調査、研究を行った結果を日本語で発表します。  
お気軽にご参加ください。

日時 **2021年12月22日(水)** 第一部 9:05~10:30 (プログラム 1~4)  
会場 **京都ノートルダム女子大学** 第二部 12:25~13:05 (プログラム 5, 6)  
ユーニア館 3階 NDホール (申込不要・入退室自由)

発表者 「日本語表現Ⅱ」(高岸雅子講師) 履修の外国人留学生 計14名

## プログラム

【発表時間+質疑応答時間】 1組 17分程度

1	学歴について 現代人間学部 心理学科 1年次生 国際言語文化学部 国際日本文化学科 1年次生	中国では、大学入試を再開した1977年以降大学進学者の数は激増し、現在も多くの中国人は、将来良い仕事に就くために学歴が非常に重要だと考えている。30年ほど前の先行研究によると、その頃の日本人も学歴が重要だと考えていることがわかった。そこで現在の日本人の学歴についての考え方を調べたいと思う。
2	マクドナルド vs KFC 現代人間学部 生活環境学科 1年次生	「マクドナルド」と「KFC」は、同じアメリカで発祥したファーストフードチェーンだが、ベトナム、中国、日本にあるこれら2店で提供される、いわゆる「現地化されたメニュー」には、国ごとにそれぞれ独自の工夫が見られる。そのメニューに対する各国の人々の考えと、留学生が生活する国によって、店の利用傾向が変わるかについて調査を行った。
3	周囲の人々との繋がり 国際言語文化学部 国際日本文化学科 1年次生	人間は生きていく上で、社会と常に関わりながら過ごしており、周囲の人々との繋がりが重要である。だが、誰でも人々とのコミュニケーションが上手く取れるわけではない。そこで、周囲の人々との繋がりに対して、ベトナム人と日本人はどのような意識を持っているかについて調査し、比較してみた。
4	中国と日本の料理と味の比較 現代人間学部 福祉生活デザイン学科 2年次生 現代人間学部 心理学科 1年次生	中国、日本は、それぞれ異なった歴史、文化が発展し、それらが料理の味や調理方法などにも影響を与えている。両国の料理の味や香りに対するイメージにはどのような違いがあるのか、また普段料理を食べる際にどのようなことを重視しているかを知るために、中国人と日本人を対象に、調査を行った。
5	人間と動物との関係に対する意識 現代人間学部 心理学科 1年次生	人々は一般に、人間と動物との共存について、動物から受けている恩恵について、どのように意識しているのだろうか。さらに、人間と動物との関係に対する意識は、国によってどのようなところが違うのだろうか。日本人、中国人、ベトナム人、モンゴル人を対象に調査を行った。
6	マスク越しのコミュニケーションの取り方 現代人間学部 心理学科 1年次生 国際言語文化学部 国際日本文化学科 1年次生	日本では、マスク着用はマナーエチケットとして定着している。2020年初めごろから、コロナ禍でマスク着用率が急激に高くなった。日本人はマスク越しにコミュニケーションを取る際に、どのような困りごとや良い点があるか、マスク越しのコミュニケーションを上手に進めるために、どのような工夫をしているかについての調査を行った。



京都ノートルダム女子大学

教育支援部 学事課

〒606-0847京都市左京区下鴨南野々神町1番地  
TEL:075-706-3661 FAX:075-706-3790  
E-mail: gakuji@ml.notredame.ac.jp  
<https://www.notredame.ac.jp>